

JAPAN ICOMOS / INFORMATION

INTERNATIONAL COUNCIL ON MONUMENTS AND SITES

JAPANESE NATIONAL COMMITTEE 日本イコモス国内委員会

7期—8号



2008.12.10

CONTENTS ♣

はじめに／前野まさる 01

From the President/ Masaru MAENO

2008 年次第 3 回拡大理事会報告 (9/6)／赤坂 信 02

Report of the 3rd Meeting of the Executive Board, 6th September
2008 / Makoto AKASAKA

ISC 文化的景観国際委員会 2008 年臨時会合報告

／杉尾伸太郎、大野 渉 04

Report of the extraordinary meeting of ISC on Cultural Landscape
(ICOMOS-IFLA) / Shintaro SUGIO, Wataru OHNO

ISC 遺産建築の解析修復国際科学委員会／岩崎好規 04

Report of ISC on Analysis and Restoration of Structures of Architectural
Heritage (ISCARSAH) / Yoshinori IWASAKI

ISC 民家研究 (CIAV) 国際学術委員会 (ケベック) 報告

／前野まさる 05

Report of ISC on CIAV meeting and excursion to Grosse Île
/ Masaru MAENO

ユネスコ文化遺産保存日本信託基金による、タジキスタン、アジナ・
テパ遺跡の修復／渡辺邦夫 06

Preservation of the Buddhist Monastery of Ajina Tapa, Tajikistan by
UNESCO Japanese Funds-In-Trust / Kunio WATANABE

パリ本部から通知 坪井清足氏にイコモス名誉会員の称号授与 07

The Letter from Paris: Announcement about Honorary Membership
of ICOMOS upon Mr. Kiyotari TSUBOI

【寄稿】アニョンさん、ガゾラ賞おめでとう／伊藤延男 07

Contribution: Madam Añon, Congratulation on the Prize Piero
Gazzola! / Nobuo ITO

お知らせ 09

Announcements

事務局日誌 10

Diary

はじめに
前野まさる



この9月26日から10月5日まで、カナダのケベック市で3年毎に開催されるICOMOSの第16回総会がありました。総会の最初に執行委員会が開催され、次いでICOMOSの若年会員の研究会が開催されて、世界遺産保存・活用・修理・修復の後継者養成の動きが活発になりつつあります。日本でも東京芸術大学、筑波大学、立命館大学を始めとして、各大学で国内の文化遺産の保存や世界遺産の保存について開講している大学が増えてきました。

9月27日からは諮問委員会、学術委員会が開かれ「Spirits of Place」をテーマに活発な論議がありました。日本からは7人の方が発表されました。10月4日にはこの総会の重要行事として3年毎の役員の改選がありました。委員長にはベツェット氏が3年3期を務め退任で、アメリカのGustavo ARAOZが委員長に当選、副委員長にはオーストラリアのKristal BUCKLEY、中国のGUO Zhan、南アフリカのAndrew HALL、フランスのOlivier POISSONの5人が選出されました。執行委員は12名で日本から立候補していた岡田保良さんは無事当選。韓国のHae-Un RIIさん、ブルガリアのHristina STANEVAさんも無事当選でした。坪井清足先生の名誉会員もめでたく承認されました。

これからもシルクロード、朝鮮通信使など日中韓で連携していかなければならないことは多々あります。納の浦保存埋立架橋中止要請は西安総会に続き再度決議されました。日本イコモス国内委員会の宿題は多々あります。年の瀬も迫ってきました。これからもお力添えの程御願い致します。

2008年次第3回拡大理事会報告

2008年次第3回拡大理事会が去る2008年9月6日午後1時から午後3時30分まで日本イコモス事務局（東京都千代田区一ツ橋 岩波書店一ツ橋ビル会議室）で開催された。出席者は、委員長：前野まさる、副委員長：杉尾伸太郎、西村幸夫、事務局長：矢野和之、理事：赤坂信、小野昭、黒田乃生、鈴木博之、益田兼房、本部執行委員：岡田保良、小委員会主査：稲葉信子、ISC委員：大野渉、本中眞、顧問：伊藤延男、他：秋枝ユミイザベル、事務局：館崎麻衣子、以上16名が出席した。拡大理事会で討議された審議事項、報告事項、協議事項は以下の通りである。

審議事項

1. 入退会者

以下の入会者が、審議の結果承認された。

入会 個人会員

氏名	所属	専門分野	推薦者
豊島 久乃 (とよしま ひさの)	国立文化財機構 東京文化財研究所 特別研究員	水文学、砂防学、 世界遺産学 修士(農学、世界遺産学)	清水真一・斎藤英俊
末長 航 (すえなが こう)	広島女学院大学 生活科学部 生活デザイン・ 情報学科教授	美術史・建築史・ 文化資源学・ 博物館学 文学修士	羽生修二・山田幸正

退会者 なし

報告事項

1. 2008年6月14日 2008年次第2回拡大理事会

第2回拡大理事会について前野委員長から報告があった。拡大理事会は岩波書店一ツ橋ビル地下1階会議室で行なった。拡大理事会終了後、バスで富岡製糸場

に向かい、製糸場と絹産業群の見学会と意見交換会を行なった。

なお、拡大理事会報告内容についてはINFORMATION誌7-7号 p.2～p.4を参照されたい。

2. 小委員会報告

第6小委員会 鞆の浦の現況について（益田兼房）

益田主査より、国土交通省に提出した資料の説明があり、時期を見ながら何らかの具体的な提言をした方がよいのではという意見が出された。

3. ISC 報告

Heritage Documentation（高瀬裕 CIPA 委員）

高瀬裕 CIPA 委員から提出された“第3回文化遺産のデジタルドキュメンテーションと利活用に関するワークショップの案内”について矢野事務局長から説明があった。

4. 公益法人化について（矢野和之事務局長）

矢野事務局長より、新制度における公益法人の設立について、1) 公益法人の種類、2) 設立の手順、3) 定款の記載事項、4) 定款に関する検討事項などについて説明があった。理事と評議員を分ける必要があり、会則を定款に変更する作業が必要であることが報告された。韓国 ICOMOS は社団法人化している。日本イコモスの法人化への具体的取り組みは12月総会を経てスタートすることを確認した。

5. 西洋美術館の世界遺産登録についての本部へのレポート（鈴木博之理事）

フランスのル・コルビジェ財団から上野の西洋美術館を世界遺産に申請することについて8月以来文化庁、東京都、台東区との協議が進み、日本イコモスも陪席することになっている。拡大理事会では西洋美術館の増改築部分を世界遺産のあり方として、いかに判断するかとの意見もあった。



6. 後援名義使用について

「地域から見た世界遺産」(別府大学開催)

上記の件について資料が回覧され、矢野事務局長より名義使用の承認をすでに出したとの報告があった。

7. その他

(1) 文化的景観の国際委員の打診について(杉尾)

杉尾副委員長より文化的景観の国際学術委員会(IFLA)を来年9月初旬、富士山で開催を検討中であることが報告された。富士山の文化的景観の範囲については目下検討中。

(2) 坪井先生名誉会員の報告(西村)

西村副委員長より坪井先生が名誉会員に内定したこと、今後も名誉会員の推挙をしていきたいので準備をお願いしたい、との報告があった。例として、ICOMOSへの貢献度を10頁位まとめる必要があることを挙げ、韓国は10人ほど申請する様子が述べられた。

(3) 国連大学でのシンポジウムの報告(西村)

JBIC(国際協力銀行)主催のシンポジウム「世界遺産と開発—貧困削減に向けた開発協力—」について参加した西村氏から報告があった。

協議事項

1. 足達富士夫氏寄付金扱いについて

(矢野和之事務局長)

矢野事務局長より、寄付金の一時使用について説明があった。一時使用について、返却、監査等、今後ルールを作って再度協議することにした。

2. Regional Meetingの日本開催について

稲葉主査、岡田保良本部執行委員より現状について説明があった。日本イコモスもそろそろRegional Meetingを引き受ける時期に来ている。そのためには

関係省庁と連携をとりながら、日本で開催できるものを継続して協議することが確認された。

3. Cultural Route 2009 三重会議について(杉尾邦江)

杉尾副委員長よりCHICと国内委員会と三重県で来年10月の予定で国際会議を開くことを検討中である旨説明があった。

4. 木の委員会支援基金について

名誉会員伊藤延夫氏より「IIWC(イコモス国際学術木の委員会)活動支援基金」の設立についてのお願があったことを説明(矢野)

伊藤先生の代理として意思決定、判断する人が必要であること、財産管理の責任は事務局にあるので事務局が委員会に入ったほうがいいこと、などの意見が出されたが、基本的に承認の方向。詳細について継続して協議することで確認された。

5. 日本イコモス国内委員会ホームページへのリンクについて

ラビエンテ修復芸術学院からの申し出について、「維持会員になることを条件にリンクをはることが可能」と返事をしたいと説明があり、了承された。

6. 2008 QUEBEC ICOMOS 総会について

参加者について確認が行われた。

7. 2008年世界遺産委員会の結果とその課題

本中眞ISC委員(文化庁)より、2008年の世界遺産委員会での平泉の結果について、経緯、指摘事項、決議採択について報告があり、今後は日本イコモスが組織として意見を出せる場を設けたいとの意見があった。これに対して海外の専門家が日本に来る機会に情報を提供するなどの活動が必要という意見や、また日本イコモス国内委員会もできるだけ文化庁と情報交換をし

ていきたいという意見が出された。

8. その他

●8月1日から秋枝ユミイザベル氏の後任として、館崎麻衣子氏が事務局に着任していることが報告された。

●日本の世界遺産の都市景観について議論するための委員会を立ち上げたいという要望があるとの報告があり、これについては継続して協議することが確認された。

ISC 文化的景観国際委員会 2008 年臨時会合報告

杉尾伸太郎、大野 渉

文化的景観国際委員会 (International Committee on Cultural Landscapes または ICOMOS-IFLA) の 2008 年臨時会合が、2008 年 4 月 18 日 (金) から 20 日 (日) の 3 日間にノルウェー国オスロにおいて開催された。この会合は、文化的景観に関する世界遺産登録推薦審査 (デスクスタディー及び現地評価ミッション) に関わる専門家のための補助的なガイドラインを同委員会として検討するための最初の作業会合である。

日本イコモス国内委員会からは、杉尾伸太郎 (日本代表・副会長) が voting member として出席し、日本イコモス国内委員会大野渉が同行した (2003 年ドイツ会合以降 5 回目)。アジア・オセアニア地域からの出席は日本のみで、その他イタリア (会長)、イギリス (副会長)、アメリカなど 10 カ国 18 名の出席があった。会合では、文化的景観の世界遺産審査に関わった経験を基に、文化的景観の審査に特有の困難さについて整理が行われ、分野ごとに、現行の一般的な審査ガイドラインでは十分担保されていない事項を洗い出す作業を今後手分けして行なうこととなった。その他、文化的景観の保全に関連して、自然環境の観点から文化的景観に関わりをもつ IUCN とどのように協力していくか、ウィーンメモ (Vienna Memorandum on "World Heritage and Contemporary Architecture

— Managing the Historic Urban Landscape") 以降、国際的な建築家グループを巻き込んだ議論が進められている歴史的都市景観 (Historic Urban Landscape) の保護に本委員会としてどのように貢献できるかといった点について関連最新情報の紹介と意見交換が行なわれたが、これらについては、今後も継続して勉強、議論を行なうことになる。

次回会合は、2008 年 9 月末に開催される第 17 回イコモス総会の直前にアメリカ (バーモント) で開催される。その後は、2009 年に日本及びフランス (ナントーオルレアン地区)、2010 年にトルコ (イスタンブール)、2011 年にイランで開催される予定。

ISC 遺産建築の解析修復国際科学委員会

岩崎好規

1. 遺産構造物の修復手法の標準化作業

国際標準化機構 (ISO) の ISO13822 Bases of design of structures—Assessment of existing structures (構造物の設計の基準: 既存構造物の性能評価) として 2001 年に承認されたが、5 年ごとの改訂時期に合わせて、「遺産構造物の安全性評価」を付属文書の形式で加えようという提案が、カナダからなされた。日本は担当幹事国 (ISO/TC98/SC2/WG6:convener 三橋博三 (Hirozo MIHASHI) 東北大学教授) となり、本問題を扱う国内作業委員会が成立し、日本イコモスからは、現在の ISCARSAH のメンバーの中の花里利一教授 (三重大学) と岩崎好規 (サイバー大学客員教授) が参加している。

付属文書策定作業は、国内作業委員会と国際委員会 (在来の委員に ISCARSAH からの委員が参加している) の議論の意見の調整を図るという作業が続いており、今回のケベックでの意見調整は、マドリッド (スペイン)、ポドバ (イタリア) に次いで第 3 回目となる。会議は、イコモス総会の前の 2008 年 9 月 26 日 (土) に設定され、ケベックに隣接するオルレアン島の小さなホテル (Le



Canard Huppe) で朝食後の 9:45 から夕食前の 19:00 まで開催された。

ISO13822 は、確率論による構造解析を基礎としているから、構造部材の強度分布とともに、外力も確率的に与えられる必要もある。現存建物であれば、耐用年数という概念も具体的に 30 年、50 年と与えることが出来るが、遺産構造物となると、どのように設定するのか？ せいぜい、当該遺産構造物が存在してきた過去の期間を、将来に折り返す程度が言われているだけで、明確な基準も見当たらないだけに、本文文書的主流となる確率論による構造安定論の実務的適用は困難であろう。それにも拘わらず、遺産構造物の安全性評価の付属文書の存在は、一般構造物との違い（遺産真正性 (authenticity)、真正性の特性要素 (character defining element) などといった概念を位置づけるための公的文書としては有用であると考えられる。この秋には、委員会原案 (Committee Draft) として承認され、さらに、国際規格原案 (DIS) の照会及び策定、投票および修正を経て、最終国際規格案 (FDIS) の策定ののち、ISO 加盟国の賛否投票が実施され、国際規格の発行となる予定である。

2. ISCARS H 委員会

(ISC on Analysis and Restoration of Structures of Architectural Heritage)

9 月 29 日 (月) Chateau Laurier Hotel において、8:30 から 12:00 までの午前中に委員会が開催され、午後はケベック城砦の視察を行なった。

今の委員会は、6 年間務めた Pere Roca 教授 (スペイン) の後任の委員長の選出であったが、大きな混乱が発生した。委員長立候補者は、Stephen Kelley (米国) と Claudio Modena (イタリア) の二人であった。会議以前の事前投票に加えて、ケベックにおける委員会結果は、15 対 15 の同票となったのである。投票の前に、Kelley からの HP 立ち上げの報告、新規委員の承認手続きが実施され、北米大陸出身者の新規委員が承認されていた。新規委員を中心とする投票のすべては、Kelley に投じられ、Modena からの立候補演説も

なかったから、公平感の欠如が否めない。委員長選出の手法に関しては各国 1 票制で実施するようという報告もあったが、当委員会は、委員会内の委員による投票で委員長を選出し、その結果での共同委員長制で活動を継続することで了承された。しかし、11 月初め現在、メールによる意見交換が行なわれており、再選挙の可能性も出てきている。



遺産構造物の修復手法の標準化作業委員会参加メンバー (ケベック)



Stephen Kelley (左) (米国) と Claudio Modena (イタリア)
ISCARSA H 共同委員長 (暫定)

ISC 民家研究 (CIAV)

国際学術委員会 (ケベック) 報告

前野まさる

CIAV の会議は 9 月 29 日にケベック港からボートで Grosse Île 島の研究視察となった。9 時半にケベック港の 19 番デッキに集合との連絡を受け、「さて何処だろう」と市街地図をひっくり返し検討をつけて、翌朝早めにホテルを出た。「Port, Port」と通りがかりの人にたずね、港の人ばかりを見つけたどりつくと、すでに Caraffe CIAV 委員長が机を置き受付をしている。参加者は約 40 名。ボートは 9 時 30 分過ぎに出港しセントローレンス川を下り一路 Grosse Île 島に向かう。

Grosse Île 島はセントローレンス湾に流れるセント

ローレンス川の河口にある島で周辺には小島が数島あり、Grosse Île 島は其中最で一番大きい島である。元々はカナダインディアンが住んでいた島という。19世紀に始まるアイルランド移民では、アイルランドからカナダまでの長旅で病気になる人も多く、移民の一時収容施設を設けた島である。まず移民はこの島に上陸し移民全員の健康診断と消毒、衣類持ち物などは全て蒸気で消毒し、安全を確認してから入国させていたようである。その施設とは蒸気発生のもいラーから各自の持ち物を四角いかごに入れて、棚付きのトロッコに載せ蒸気室に送り込む流れ作業のような装置である。何百人と渡来する移民の衛生処置をするにはこれだけの施設が必要だったのだろう。収容施設は、当初、平屋下見板張り。屋根は柿葺きの簡単な建築だったが、1880年になるとヴェランダ付きアティック付きの2階建て施設や住宅が建てられるようになる。こうした状況の中、移民の18%の人が亡くなったように1848年には下見板張り風の応急的の病院も建てられた。説明板の絵入り説明によると、移民は蚕棚のようなベッドに1ヶ月以上も寝かされていたように、1881年には1階にテラス付きの長屋式病院が建ち、環境改善が進められた。

また、島の西の外れにはそうした方を埋葬した広大な墓地もあり、死亡者の名前も刻まれていた。キリスト教諸派の教会も数カ所建てられた。このGrosse Île 島視察で、当初のアイルランド移民がいかに苦難の道をたどっていたかと云うことが良く知らされたCIAVの研究・会議であった。ボートの中ではしゃいでいた人も、島ではすっかり静かになって島の歴史に耳を傾けていた。



イラスト／前野まさる

ユネスコ文化遺産保存日本信託基金による、タジキスタン、アジナ・テパ遺跡の修復

渡辺邦夫

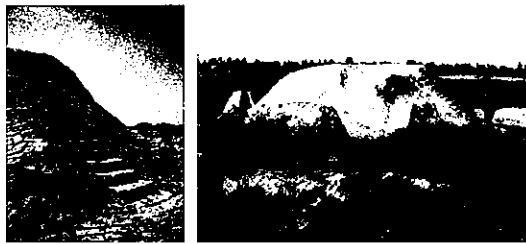
タジキスタンのアジナ・テパ仏教遺跡は紀元7～8世紀にかけて古代シルクロードに沿って建造された仏教僧院である。その平面形状は、幅約50m、長さ約100mの長方形であり、ストゥーパ（仏塔）を中心とする「塔院」部分と、四角い中庭を囲む「僧院」部分から成る。1961～1975年に旧ソ連の考古学者B.A.リトヴィンスキーらによって発掘調査が実施され、写真や図面等で詳細な記録が取られた。この発掘調査で、中央アジア最大と言われる涅槃仏（現在はドゥシャンベの考古学博物館に展示）が発掘された。発掘終了後、適切な保存が行なわれず、発掘された僧院の壁やストゥーパは大きく風化・崩壊した。この仏教僧院遺跡を保存するため、ユネスコ文化遺産保存日本信託基金を用いて2005年12月より3年計画で修復プロジェクトがスタートし、2008年12月で終了する。筆者は、本プロジェクトの修復分野の国際専門家リーダーであった。修復で必要となる考古学調査は、東京文化財研究所の山内和也室長がタジキスタンの考古学研究者と共に進めた。

修復の基本コンセプトは、残存した壁やストゥーパを、同じ材料で作られた日干しレンガと壁土で覆う方法である。同じ材料である事の検証は主に鉦物分析により、行なった。またイタリアのエンリコ・フォッデ氏が、物理試験を行なって日干しレンガや壁土の作製方法を定めた。さらに、修復に当たっては、遺跡の写真測量が（財）深田地質研究所の藤井幸泰氏により行なわれた。そのデータを用いて、埼玉大学の深堀清隆准教授がタジキスタン文化省と協力して、景観設計を行ない、ウォーク・スルーのアニメーションを作成した。さらに、壁の崩壊プロセスについて、写真測量によるモニタリング、壁からの析出塩類の分析、蒸発計測などにより検討した。以上のように、遺跡修復・保存に関わる多くの科学的調査・研究を体系的に行ない



得たことがアジナ・テバ遺跡修復の成果といえる。

写真に、2008年10月に行なわれた、ストゥーバの日干しレンガと壁土による被覆の例を示す。今後、この修復方法の有効性をモニタリングを行なって検証していく予定である。



ストゥーバの日干しレンガ被覆(左)と壁土被覆の状況(右)

(埼玉大学 地圏科学研究センター)

パリ本部から通知 坪井清足氏にイコモス 名誉会員の称号授与

この度、坪井清足氏にイコモス名誉会員の称号が授与される決定がイコモスのパリ本部から日本イコモス国内委員会事務局宛てに通知が届いた。坪井氏ご本人に許可を得て、本誌にその通知を掲載する。

2008年11月7日 パリ

坪井 清足様

日本イコモス国内委員会の推薦を受け、2008年9月29日より10月4日 カナダ ケベック州にて開催された第16回イコモス総会は、貴殿の当組織への貢献と歴史的建造物・遺跡・建造物群の保存・修復およびその価値向上に係る分野における殊勲をたたえ、貴殿にイコモス名誉会員の称号を授与することを決定いたしました。

この度、他9名の会員がイコモス名誉会員となりました。

Juan-Benito Artigas Hernandez 氏 (Mexico)

Cyro Correa Lyra 氏 (Brazil)

Hernan Crespo Tora 氏 (Ecuador) ご逝去

Tamas Fejerdy 氏 (Hungary)

Jonas Glemza 氏 (Lithuania)

Zahi Hawass 氏 (Egypt)

Birgitta Hoberg 氏 (Sweden)

Michel Jantzen 氏 (France)

Gilles Nourissier 氏 (France) ご逝去

Piero Gazzola 賞は、Carmen Añon Feliú 氏 (歴史的庭園を専門とする造園家、庭園史と歴史的庭園の修復学教授、スペインイコモス会員、歴史的庭園 (現文化的景観) に関する ICOMOS-IFLA 国際委員会の名誉委員長、1992～1997 年イコモス諮問委員会の前委員長) へ、その13年以上に渡るイコモスへの多大なる貢献、特に歴史的庭園と文化的景観に関する功績に対し、授与されました。

イコモス会長 Gustavo Araoz 氏、選考委員会議長 Benjamin Mouton 氏、そしてイコモスの全会員に代わり、心からのお祝いを申し上げますとともにご多幸をお祈りいたします。

敬具

Gaia Jungeblodt

ディレクター

イコモス国際事務局

【寄稿】

アニョンさん、ガゾラ賞おめでとう

伊藤延男

今回カナダ・ケベックに於いて開催されたイコモス総会は、私にとって最後の総会となるであろうと予感された。わが身の体調を考えると、出席さえ相当困難であって、ギリギリまで決心がつかなかった。しかし、ここ1年ばかり心血を注いだ「国際学術木の委員会」の規約改正という仕事に目途をつけておきたかったし、また急に、役員OBを集めてコンソール・デ・サガ (賢人会議) を立ち上げるから出て来いとの会長要請を受け (このことは結果的には延期になったが)、土壇場

になって出席する事を決めたような次第であった。そのため、渡邊保弘さんをはじめ多くの皆さん方に大変お世話になった。厚く御礼申し上げたい。

木の委員会規約については、私の案でほとんど纏まったが、これから仏文を作成せねばならず、新委員長タンボーネ氏の下で作業が進められることとなった。従って新規約の実施は3年後に持ち越されたが、その間は、引退を表明した私も委員会に残ることとなった。また新委員長の強い要請を受け、渡邊さんがエクスパート・メンバー役として活躍頂けることになった。まあ、総会関連の報告はこれ位にしておくことをお許し願いたい。

さて考えてみると、私は第5回のローテンプルク以来、第16回のケベックまで、1～2回を除いてほとんどの総会に出席している。こんなに長く関わっていると、古くからの会員に会うことがこの上ない楽しみになる。今回もじつに大勢の旧友に会えた。足を痛めた私が座っていると、向こうから来てくれる。会えば、互いに抱き合って再会を喜ぶ。これがイコモスの良い所で、公式の会議では得られぬ親密さが伝わってくる。同じ志を持つ者同士の連帯感というべきものであろうか。そんな楽しい会のなかでも、カルメン・アニョンさんがガゾラ賞の受賞者に決まったことは、特に嬉しい出来事であった。ガゾラと云えば、イコモスの初代会長である。その人を記念して創設されたこの賞は、まさにこの道に携わる人々にとって最高の賞なのだ。

私がイコモスに顔を出すようになった頃は、ガゾラさんもまだ健在であったし、中心となって活躍していた主要メンバーは、私よりちょっと年上で、ほとんどすべて戦争経験者であった。一旦は敵味方に分かれ、あるいは戦禍に巻き込まれても、その間に、あるいは平和回復の瞬間に生まれた個人と個人の友情と信頼がそれらの人々の間に脈々と流れているのを実感することができた。どの人も極めて謙虚で、決して人を傷つけるようなことはなかった。これは長い闘争の歴史、特に世界大戦の経験を通して得たヨーロッパ人の知性を示すものであり、正しく「人の心の中に生まれる戦争の芽を摘み取る」というユネスコの精神に連なるも

のなのだ。私がイコモスにのめりこんだのは、それを知った感激からであった。だが、今やそれらの人々の多くは幽冥境を異にし、今のイコモスは能吏の時代となっている。時代の差というべきだろう。このことについて語りたいことは多々あるが、今は深く触れない。

アニョンさんは、ランドスケープの専門家として著名な方であるが、私は格別深く彼女を知っているわけではない。また一緒に仕事をしたこともない。年齢も知らないが、恐らく私よりもずっと下であろう。だから戦争の記憶はさほど強烈でないかもしれない。だが、イコモス諮問委員会の議長としての会議の捌き方を傍から見て、またあの銅板画から抜け出たような顔立ちに接していると、かつていたヨーロッパの知性を代表するイコモス・メンバーの一人、ひょっとしたらその最後の人ではないかというような気がしてならなかった。実はアニョンさんについては一つの思い出がある。去る時、それはローランド・シルバ氏が表舞台に躍り出る直前のことだが、ヨーロッパの人材に端境期が生じ、会長候補に事欠いた時期があった。丁度その時、日本では富士山のシンポジウムをするというので、ポーランドで開催されていた会議を途中で打ち切り、アニョンさんを日本にお連れしたことがあった。その途中飛行機の中で、私は彼女に次期イコモス会長に立候補するよう強く要請した。本当に真剣に口説いたので、私の英語でも通じたらしく、彼女も真剣に、実はかなりなまりのある英語であったが、「私には big family があるから、出られない」と云った。私は、多分 IFLA のことであろうと推察し、口を噤まざるを得なかった。

今度の会議で顔を合わせた時、まずは当然のことながら、彼女とはあの抱擁式の挨拶を交わした。そしてガゾラ賞が決定したときは、私は彼女を雑踏の中に探し当て、おめでとうの挨拶を述べ、抱擁した。耳元で小さいチュッという音が聞こえたのは気のせいだろうか。彼女は傍らに立つ令嬢を紹介し、今後イコモスのことも、IFLA のことも彼女に託すと言った。彼女はとても幸福そうだった。私も幸福に思った。



お知らせ

第22回CIPA国際シンポジウム2009（京都）：論文関連スケジュールの変更のお知らせ

9月5日発行のJAPAN ICOMOS/INFORMATIONに、アジアで初めての開催となる第22回CIPA国際シンポジウム2009京都のFirst Announcementを出させていただきましたが、アブストラクト・論文関連のスケジュールに変更がありましたので、お知らせいたします（期日が遅くなりました）。また、正式なホームページ（<http://www.rgis.lt.ritsumei.ac.jp/cipa2009/>）がオープンしましたので、詳しくはこちらをご覧ください。

CIPA（International Committee for Architectural Photogrammetry）は、ICOMOS（International Council on Monuments and Sites）の国際委員会のひとつとして、ISPRS（International Society for Photogrammetry and Remote Sensing）と共同で1968年に設立された組織であり、新しい計測技術および表現技術の導入と普及による文化遺産のドキュメンテーションと利活用の手法の改善をめざした諸活動を推進しています。二年に一度、学術成果の発表を含む国際シンポジウムが開催され、前回は2007年10月にアテネで行なわれました。

コンピュータやインターネットを中心に、情報通信技術の発展と普及が進み、豊かなデジタル情報を誰でも利用することができるようになってきました。また、レーザー計測、デジタル写真測量、リモートセンシング、GIS、CG/VRなどの計測、分析、表現の技術も急速な進歩を続けています。文化遺産の修復・保存、考古学、歴史学、建築学などの分野においても、これら新しい技術を利用した文化遺産のデジタルな記録・保存（デジタルドキュメンテーション）と、新しい表現技術（ビジュアライゼーション）による利活用と公開の重要性に対する認識が高まっています。

皆様の積極的なご協力、ご参加、ご後援をお願い申

し上げます。

参考 URL：

CIPA2009 京都のお知らせ

<http://www.rgis.lt.ritsumei.ac.jp/cipa2009/>

CIPA のホームページ <http://cipa.icomos.org/>

CIPA2007 アテネのホームページ

http://www.survey.ntua.gr/hosted/cipathens_2007/

記

時期：2009年10月11日（日）～15日（木）

（日本写真測量学会秋季大会（10月13日～15日）と同時開催）

場所：京都テルサ（JR 京都駅より南へ徒歩10分）

<http://www.kyoto-terrsa.or.jp>

言語：英語

主要スケジュール：

拡大アブストラクトの締切 2009年5月15日

論文の採択通知 2009年6月30日

論文のカメラレディ原稿の締切 2009年8月15日

シンポジウムの主要テーマ：

- ・文化遺産のデジタル記録、ドキュメンテーションおよび利活用
- ・文化遺産の修復・保存における ICT 技術利用
- ・デジタルアーカイブ
- ・文化遺産のデジタル写真測量、レーザー計測およびリモートセンシング
- ・文化財防災
- ・デジタル考古学
- ・GIS、バーチャル歴史都市
- ・ドキュメンテーションの標準化
- ・知的所有権、オープンソース
- ・3次元モデリング、ビジュアライゼーション、CG・VR・MR・Web 技術
- ・教育、コミュニケーション
- ・画像処理技術、センサー技術 など

お問合せ先：

日本写真測量学会事務局 藤野 office-jsprs@jsprs.jp

高瀬裕（Symposium Director of CIPA 2009／立命館大学）

事務局日誌

(2008年7月31日～2008年11月08日)



- 08/05 群馬県企画部世界遺産推進室より、「富岡製糸場と絹産業遺産群」広報用外国語リーフレット及びDVDを受領。
全国町並み保存連盟より「全国町並みゼミ伊勢大会報告書」「第31回全国町並みゼミ卯之町大会プログラム」「町並みかわら版 vol.41, 42」を受領。
立命館大学グローバルCOE 歴史都市を守る「文化遺産防災学」推進拠点より、キックオフミーティングの案内を受領。
- 08/11 World Heritage Centreより、「UNESCO 2008 Desk Diary」「WORLD HERITAGE 2007-08」「Our World Heritage」「WORLD HERITAGE」を受領。
- 08/15 Congress Corporationより、「世界遺産と開発—貧困削減に向けた開発協力—」セミナーのご案内を受領。
- 08/20 日本ICOMOS国内委員会主催「Mehrdad Hejazi氏講演会 ～イランにおける土と木の建築遺産の構造と修復～」開催（於 東京藝術大学 赤レンガ館 1号館2階会議室）。講演会終了後、Hejazi氏と日本ICOMOS国内委員会の懇親会を浅草にて開催。
- 08/27 国土交通大臣へ「広島県福山市の文化遺産を破壊する公有水面埋立免許の認可申請に対する要望書」を送付。
- 08/29 Gustavo Araoz氏（US イコモス 会長）来日歓迎の夕食会を国内委員会理事中心として青山で開催（10名参加）。
- 09/06 2008年次第3回拡大理事会 開催（於 岩波書店一ツ橋ビル 地下1F会議室）。
日本イコモス国内委員会研究会「世界遺産：ユネスコの課題・日本の課題 ～前ユネスコ日本政府代表部 特命全権大使 近藤誠一氏をお招きして～」開催（於 湯島聖堂斯文会館 講堂）。
- 09/10 東京文化財研究所より、「東京文化財研究所 概要2008」「TOBUNKENNEWS no.33」「TOBUNKENNEWS DIGEST no.3」「小学生向けパンフレット」を受領。
- 09/17 (財)ユネスコ・アジア文化センターより ACCU news no. 369、2008.9を受領。
バリICOMOS本部より、ICOMOSカード（修正・追加分）が到着。順次発送。
- 09/29-10/04 16th ICOMOS General Assembly and International Scientific Symposium, Quebec開催。日本イコモスから20名参加。矢野和之、益田兼房、杉尾邦江氏が論文口頭発表の他、土本、赤坂、福島、石川各氏がポスター発表。役員選挙において、岡田保良氏が執行委員に再選。委員長はGustavo Araoz氏に。坪井清足氏が名誉会員に選出。
- 10/01 バリICOMOS本部より「ICOMOS WORLD REPORT 2006/07」を受領。
- 10/08 全国町並み保存連盟 理事長へ 第31回全国町並みゼミの後援依頼に対して許可を返送。
別府大学 学長 西村明氏へ 公開シンポジウム「地域から見た世界遺産」の後援依頼に対して許可を返送。
- 10/15 立命館大学 歴史都市防災研究センター センター長 土岐憲三氏へ 歴史まちづくり法施行記念国際シンポジウム「地震帯にある世界文化遺産の危機管理をどう進めるか」の後援依頼に対して許可を返送。
- 10/15 国土交通大臣・広島県知事・福山市長へ、9～10月にカナダ ケベックにて開催されたイコモス総会における額の浦に関する決議文を送付。
- 10/21-26 西洋美術館の世界遺産評価ミッションのため、Sheridan Burke氏（オーストラライコモス）来日。
- 10/23-26 中国貴州にて貴州文化庁・北京大学・同济大学 主催、UNESCO・中国ICOMOS後援による 国際シンポジウム “The International Academic Symposium of Conservation and Sustainable Development of Village Cultural Landscape” 開催。下間久美子・増井正哉・黒田乃生の各氏が参加。
- 10/26 Sheridan Burke氏と日本イコモス国内委員会有志による意見交換会開催（11名参加）。
- 10/29 明日の額を考える会会長他3名からの額の浦に関する公開質問状（9/8付）を受領し、10/29付で回答。
- 10/29-11/01 中国北京にて中国国家文物局・UNESCO WHC・ICCROM・中国ICOMOS共催 国際シンポジウム “the Conservation of Painted Surfaces on the Wooden Structures in East Asia” 開催。矢野事務局長・窪寺茂氏・村田健一氏・馬場良治氏・秋枝ユミザベル氏が参加。
- 11/05 Christina Cameron氏と日本イコモス会員との意見交換。テーマは「世界遺産のOUV (Outstanding Universal Value: 顕著な普遍的価値)」(16名参加)。

日本イコモス国内委員会 維持会員（代表者）

株式会社 尾田組（尾田芳信）
株式会社 都市環境研究所（矢嶋啓自）
株式会社 ブレック研究所（杉尾伸太郎）
株式会社 トリアド工房（伊藤民郎）
西武建設株式会社（大澤茂治）
北野建設株式会社（北野貴裕）
株式会社 小林石材工業（小林美和）

株式会社 鴻池組（玉井啓悦）
株式会社 乃村工務社（乃村義博）
株式会社 文化財保存計画協会（矢野和之）
「国宝松本城を世界遺産に」推進委員会（菅谷 昭）
株式会社 京都科学（片山 保）
「善光寺の世界遺産登録をすすめる会」（仁科恵敏）
株式会社 丹青社（渡辺 亮）

（敬称略・順不同）

●日本イコモス国内委員会 理事会 JAPAN-ICOMOS EXECUTIVE BOARD

President	委員長	前野 まさる	Masaru MAENO
Vice President	副委員長	杉尾伸太郎	Shintaro SUGIO
		西村 幸夫	Yukio NISHIMURA
Secretary General	事務局長	矢野 和之	Kazuyuki YANO
Trustees	理事	赤坂 信	Makoto AKASAKA
		小野 昭	Akira ONO
		河野 俊行	Toshiyuki KONO
		黒田 乃生	Nobu KURODA
		清水 真一	Shinichi SHIMIZU
		杉尾 邦江	Kunie SUGIO
		鈴木 博之	Hiroyuki SUZUKI
		田中 哲雄	Tetsuo TANAKA
		田辺 征夫	Yukio TANABE
		西浦 忠輝	Tadateru NISHIURA
		濱崎 一志	Kazushi HAMAZAKI
		益田 兼房	Kanefusa MASUDA
		宮城 俊作	Shunsaku MIYAGI
		渡邊 保弘	Yasuhiro WATANABE
Auditors	監事	沢田 正昭	Masaaki SAWADA
		前田 耕作	Kosaku MAEDA
Advisors	顧問	石井 昭	Akira ISHII
		伊藤 延男	Nobuo ITO
		坪井 清足	Kiyotari TSUBOI

小委員会 WORKING GROUPS

Chiefs	主査	藤井 恵介	Keisuke FUJII
		稲葉 信子	Nobuko INABA
		石井 昭	Akira ISHII
		三宅 理一	Riichi MIYAKE
		益田 兼房	Kanefusa MASUDA
		西村 幸夫	Yukio NISHIMURA
		崎谷 康文	Yasufumi SAKITANI

●国際諸委員会参加者 REPRESENTATIVES TO INTERNATIONAL COMMITTEES

Executive Member	岡田 保良	Yasuyoshi OKADA
Advisory Committee	前野 まさる	Masaru MAENO
ISC on:		
Archaeological Heritage Management	小野 昭	Akira ONO
	岸本 雅敏	Masatoshi KISHIMOTO
Analysis and Restoration	花里 利一	Toshikazu HANAZATO
	坂本 功	Isao SAKAMOTO
	西澤 英和	Hidekazu NISHIZAWA
Historic Towns and Villages	福川 裕一	Yuichi FUKUKAWA
	上野 邦一	Kunikazu UENO
Underwater Cultural Heritage	荒木 伸介	Shinsuke ARAKI
Training	稲葉 信子	Nobuko INABA
	工桑 善通	Yoshimichi KURAKU
Cultural Landscapes	杉尾伸太郎	Shintaro SUGIO
	本中 眞	Makoto MOTONAKA
Vernacular Architecture	前野 まさる	Masaru MAENO
	大野 敏	Satoshi OHNO
Wood	伊藤 延男	Nobuo ITO
	渡邊 保弘	Yasuhiro WATANABE
Earthen Architecture	岡田 保良	Yasuyoshi OKADA
Cultural Tourism	宗田 好史	Yoshifumi MUNETA
	石井 昭	Akira ISHII
Legal Issues	河野 俊行	Toshiyuki KONO
Heritage Documentation	山田 修	Osamu YAMADA
Cultural Routes	杉尾 邦江	Kunie SUGIO
	大野 渉	Wataru OHNO
Stone	西浦 忠輝	Tadateru NISHIURA
	石崎 武志	Takeshi ISHIZAKI
Risk Preparedness	益田 兼房	Kanefusa MASUDA
Rock Art	小川 勝	Masaru OGAWA
	五十嵐ジャンヌ	Jannu IGARASHI



JAPAN ICOMOS/INFORMATION

Vol.7, No.8 10 DECEMBER 2008

日本イコモス国内委員会 委員長 前野まさる

事務局担当理事 矢野和之 編集 赤坂 信

〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋2-5-5 岩波書店一ツ橋ビル13階

株式会社 文化財保存計画協会 気付

Tel & Fax: 03-3261-5303 e-mail: jpicomos@japan-icomos.org

<http://www.japan-icomos.org/>

JAPAN-ICOMOS National Committee Secretariat

c/o Japan Cultural Heritage Consultancy

Hitotsubashi 2-5-5-13F, Chiyoda-ku, Tokyo 101-0003, Japan

Tel & Fax: +81-3-3261-5303 e-mail: jpicomos@japan-icomos.org

<http://www.japan-icomos.org/>